

さこそで®みわー地域とともに進める持続的な駅まちづくりの取組一報告書

1 趣旨

近年では「まちを表現する場」や「コミュニティの場」など地域の交流拠点としての役割を駅に期待する事例が増えており、時代の変化とともに、地域から求められる駅の役割も変わってきています。

さこそで®は、“新たな駅の役割”や“駅守（駅員のいない無人駅で駅を管理したり活用したりする人）”を発掘し、「地域とともに持続的な駅まちをつくる」ことを目指し、地域とともにコトづくり（スキームやコミュニティ、事業創造）の検討や実践を行う取組です。

さこそで®の中でも先進的かつ持続的に進められており、2025 年度関西まちづくり賞を受賞した、さこそで®みわ（奈良県桜井市三輪駅／万葉まほろば線）の取組紹介と現地視察を行うフィールドワークを開催しました。

2 開催要項

◇日 時：2026 年 7 月 5 日（日）11:30～13:30

◇場 所：三輪恵比須神社社務所（取組紹介）、三輪駅まちなかエリア（フィールドワーク）

◇参加者：一般 13 人、事務局 12 人

◇内 容：取組紹介の後にフィールドワークを行った。

3 内容概要

取組紹介

◇ 三輪まちづくり法人株式会社リアライズ 下出貴史氏

ー全国のローカルな駅まちづくりを体系的に進めるひな形づくりー

- ・歴代宮都、芸能発祥、精神文化など国家の誕生の地であり、日本最古の神社「大神神社」、日本最古の市場の神「三輪恵比須神社」を有し、お酒・素麺の発祥の地である歴史・文化を継承し、進化させていく持続可能なまちづくりを進めている。
- ・2010 年から官民連携のまちづくりを進め、民がまちなかや三輪駅周辺での交流促進、情報発信、イベントの運営、地域資源を活用したプロダクト開発などのソフトの取組を実装し、行政が参道、県道、歩道などのハード整備を担うことが現時点での役割分担となっている。

◇ さこそで® 武部俊寛氏

ー「駅」を交通拠点から交流拠点へ。モノづくり主導からコトづくり主導へー

- ・1872 年の日本初の鉄道が開通した後、自動車と道路網の普及・整備などから現在ではローカルな地域の鉄道・線区では利用者が大きく減少している。

- ・さらに駅舎の老朽化などが課題となっている中、駅舎のシンプル化＋無人化＆ICT化を進めており、交通拠点としての駅舎の役割が失われつつある。
- ・さこそて®の取組はこのような現状から駅の役割を読み替え、駅とまちが元気になる好循環を生み出そうとするもので、地域と共創した持続可能な駅まちをつくるもの。
- ・2022年度から三輪駅地域作戦会議を毎月1回程度開催し「駅がまちづくりに使える場所だと思っていなかった！おもしろい！まちの未来を駅で考えよう」と地域との対話を進め、2024年度から三輪縁結び広場を毎月第一日曜日に開催するようになった。
- ・縁結び広場の開催から、地域事業者や農業生産者、鉄道事業者、学術研究者との連携、アーティストの招聘、プロダクト開発などの広がりを見せている。
- ・取組を振り返ったとき、駅という場が持つ特性（偶発性・拠点性・寛容性）に再発見があった。地域・まちの収益事業をつくること、地域の体制強化を進めること、駅の新たな役割をつくること、駅まちづくりの仕組みをつくることで、地域主体の駅まちづくりを体系的に進めるひな形を三輪からつくっていききたい。



Q1 駅の管理や窓口があったスペースはどのように利用しているのか。

A1 三輪駅は駅舎も用地もJRが所有・管理している。ただし、他には駅舎を地元が引き取って指定管理のような仕組みで活用しているところもある。

Q2 三輪駅も地元で引き取ることを見据えているのか。

A2 見据えた上で駅の可能性を検証しながら今後検討していく。

Q3 参道のハード整備を進めるとますます参道側への周遊性が高まっていくのではないかと。参道から駅やまちなかへの人の誘導など取り組んでいることはあるか。

A3 まちなかの隠れた魅力がまちなかエリアにあるのでスタンプラリーなどを実施しており、魅力を発信、体験できる取組を進めている。店舗とのコラボでまちなかへ送客する仕組みと駅での

P Rを進めている。初詣は駐車場利用に3時間待ちで交通渋滞が引き起こされている課題があり、参拝者向けに鉄道の利用促進を提案している。

フィールドワーク

◇ 三輪ミライフ会議 小関吉浩氏

三輪のまちは、これまでの都市の交通（※）と機能（市場町と門前町、宿場町）によって骨格と土地利用が形成された。

※交通とまちの骨格の形成について

1 徒歩交通の時代

上街道沿いに市場町・門前町・宿場町として形成され、市場の神をまつる三輪恵比須神社は上街道へ正面を向けている。

2 鉄道交通の時代

明治末期に鉄道が開通し三輪駅が設置されると、時代は鉄道交通へと移る。駅から大神神社参道へ続く商店街が形成され、まちの商業の中心は上街道沿いから駅周辺へと移っていった。

3 自動車交通の時代

昭和40年代前半、モータリゼーションの進展により、大神神社参道（松の馬場）に沿って2車線の県道が整備され、平成期には参道沿いに大神神社駐車場が整備され、来訪者の動線は駅前商店街から参道周辺へと大きく変化した。

上記の紹介があった後、交通体系の変化による都市構造の転換による課題や、その解決のための実践について、現地のキーポイントなどで解説を加えつつ、地域内で新たに开店された店舗や三輪駅で開催されていた「JR 三輪駅縁結び広場 vol.15」も合わせて視察した。



